

# 夕張市議会だより

2010年2月1日  
第8号  
議会運営委員会

## 第4回定例会の 主な議会議決事項

(会期12月17～25日)

議案10件  
報告5件  
諮問1件  
意見書4件

◎夕張市財政再建変更計画書の提出  
※財政構造の健全化と財政基盤の確立を図り、もって地域の将来に向けて透明性の高い持続可能な財政構造の構築を目的とするため、財政再建計画の変更協議の申し出を行うもの。(主な変更は、新型インフルエンザワクチン接種費用負担軽減事業実施による委託料、医療扶助費の増や資源ゴミ分別パンフレット作成のための臨時職員雇用経費の増、全国瞬時警報システム整備事業実施などで歳出総額は1千262万5千円。同額の国・道支出金の歳入総額)  
◎平成21年度夕張市後期高齢者医療事業会計補正予算  
◎平成21年度夕張市水道事業会計補正予算  
◎財産の処分について  
※条件付一般競争入札の結果に基づき、夕張市農産物処理加

工センター等3施設の建物及び土地を処分及び無償譲渡しようとするもの。処分の相手方は(株)アンサー。処分予定価格は3千716万7千円。ただしめろん城、観光物産センターの建物については無償譲渡。  
◎市賃貸住宅条例の一部改正  
※市営住宅の用途廃止のため。

### 意見書

第1号 電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書

第2号 新たな食料・農業・農村基本計画に関する意見書

※北海道農業の潜在能力を發揮し持続可能な農業の確立を図るため。

第3号 平成22年度個別所得補償モデル対策及び関連政策に関する意見書

※生産者が将来に展望を持ち、安心して経営を持続できる政策の確立に向け。

第4号 社会的セーフティネットの拡充に関する意見書

※日本国憲法に明記された「健

康で文化的な最低限度の生活」を営むことができるよう総合的なセーフティネット体系の整備に向け。

### 12月定例会 一般質問

(質問順)

#### 加藤喜和議員質問

質問の趣旨 私は、新たな再生計画が夕張の真の再生となるよう、国・道の十分な理解と、そのことによる支援が必要であると考えており、夕張の窮状を訴えることは勿論ですが、特に夕張が再生するテーマに基づく事業の必要性を国(国民)に説得し続ける努力が必要で、さらに、市民自らが再生に向かう決意を示すことが重要です。また、その再生計画に盛り込んだ住宅の再編事業が新たなまちづくりの基盤事業であることを市民にも明確に示すべきことを趣旨に質問を行った。

#### ◎再生計画について

(1) 再生計画の進捗状況と素案策定までの流れは。

##### ■答弁

10月の住民説明会での要望・意見を踏まえ、二次集計を取りまとめ、国や道に提出した。市民生活と地域の再生に必要な事業を盛り込んだ結果、現行の残

り期間の15年で、177億円の赤字解消不足が生じる結果となったもので、引き続き道と相談・精査をしながら、計画の素案を早急に取りまとめ国との協議を行う。

(2) 再生計画策定のテーマと二次集計の位置付けは。

##### ■答弁

計画の策定にあたっては、これまでの再生計画の取り組みを基本としながらも、市民生活の安心安全の確保、将来にわたっての「まちづくり」を重点課題として、財政の健全化と地域の再生を図っていく事が重要と考えている。この二次集計は、市民生活に必要な事業の中から、子育てや高齢者・教育への配慮、住宅再編や地域医療の確保など、必要最小限の事業を盛り込んだもので、地域の再生なくしては財政の再建は果たせないと考えている。

要望 今後もオープンで論議を事業の必要性を、テーマを持つて示せ。

(3) 計画策定までの国・道への働きかけとその課題は。

##### ■答弁

道から二次集計についての意見を頂いたので早急に精査し、計画期間が必要最小限となるよう夕張が果たすべき役割をしっかりと整理・反映した上で、さ

夕張市議会では議会の動きを多くの市民にお知らせするために、「議会だより」の他に「市議会報」を発行しています。市議会報は各新聞販売店さんのご協力により折込みしていただいています。また市役所や支所、ふれあいサロンにも配布していますので、お読みください。

ご意見・ご感想を  
お寄せください  
夕張市議会事務局  
本町4丁目  
電話 52-3172

1面から

らに困難な部分については国や道の理解のもと、その支援が得られるよう全力で取り組んでいきたい。

### 〇住宅再編とまちづくりについて

(1) 再生計画のまちづくりの基本となる「まちづくり検討プロジェクト」の進捗状況は。

■答弁

これからのまちづくりに重要な課題は多くありますが、その中でも、地域医療体制や子供たちの安心安全の確保、交通の利便性の向上を進める必要がある。住宅再編事業は、それらのまちづくりの根幹となる事業であり、単に住宅の建替えや改修を行うだけでなく、市営住宅のあり方や機能性を横断的に検討する必要があります。このため「夕張まちづくり検討プロジェクト」を設置した。これまで2回開催。将来を見据えて医療・福祉・文教・交通の充実と連動を図る住宅再編事業とする事を基本とし、清水沢地域を中心に都市機能の集約、ゆとりある住環境を確保していくことを確認し、活用可能な調査検討を進めている。

■答弁

この交付金は対象事業の45%

が交付されるもので、住宅建設のみならず、道路や公園、集会施設の建設や、建替えに伴う老朽住宅の除却等も交付対象となり住宅再編事業4億円の内27億8千万円をこの交付金で活用することとしている。さらに国に交付率のかさ上げや過疎債の適用事業の拡大についても要望している。

(3) 高齢者住宅等の民間活用

■答弁

住宅等の民間活用は、その必要性を強く感じている。夕張に住み続けたいと思っている高齢者の方々が、安心して生活できる住宅整備が必要で、食事の提供や共同浴場・娯楽室等を兼ね備えた民間の高齢者下宿やアパートの建設誘致も有効な手段であると考える。また若者が定着するための民間賃貸住宅の誘致を来年度に実現するため、市内企業へのニーズ調査を実施している。人口の減少を食い止めるためには、住環境の改善が重要であり既存企業や新たに進出した企業の従業員の方々が、市内で安心して居住していただくために早急な改善が必要で、市有地や遊休施設を最大限活用し民間事業者が進出しやすい環境整備・住宅再編事業をしつかりと進める。

### 新山純一議員質問

質問の主旨 今度の再生計画には歳入増の論議がほとんどなく、財政赤字を克服するには夕張の活性化を図りその返済の体力をつけることが重要で、市の遊休施設、特に今後予測される学校施設の活用を早期に検討することが必要。民間の参入を誘発する情報提供等の努力が、国・道の支援にも結びつくとして質問した。

### 〇地域活性化対策について

(1) 学校跡地の活用について

22年度から始まる再生計画に向け、市長は住民要望を織り込んだ87項目にのぼる第二次集計結果を道に提出し協議が始まった。しかし道は財政支援は他自治体との関係から非常に厳しいものがあると表明している。市民サービスがこれ以上低下することなら、人口の流出を止めることができないのではないかと。ただ負債を返すためだけでは将来に不安があるだけで、この先何十年も市民の体力は持たないと思う。しかし今作ろうとしている再生計画には歳入についての議論がほとんどなされていない。どうしたら歳入を確保できるのか行政として検討すべきではないか。

いか。22年度に中学校、23年度には小学校が1校になる。閉校になる学校跡地の活用をどのようか考えているのか。一つの例をあげると、社会福祉法人明和会よしの園が21年から23年までに新十津川町の旧花月小学校跡地に入所厚生施設を計画している。入所者は70名、職員数180名の雇用となっている。夕張市も23年度には多くの学校跡地がでる。インターネットなどを使い企業誘致に取り組んではどうか。また、道・国などにも働きかけ側面からの支援をお願いしてはどうか。

■答弁

これまでも財産の有効活用に努めてきた。特に学校施設については、平成17年以降に閉校し、再利用が可能な校舎が3校あり、これまで問い合わせがいくつかあったが、施設の形状、維持管理に要する経費などが課題となり活用に至っていない。閉校後は普通財産として管理することになり、厳しい財政状況の中、保全または活用をどのように図っていくのか、大きな課題と認識している。学校跡地の財産処分にあたっては、国の方針も従前と比べ緩和されてきているが、活用いただく相手が必要となる問題であり、具体的な方向性を示すことができない状況。

福祉関連施設の誘致については、施設の有効活用、定住対策の推進が図れることとなり、また、地域の活性化や歳入の増加にもつながることから、活用案の一つとして検討していきたい。さらに、学校を含めた施設の遊休状態が中・長期化することによる、老朽化、荒廃等の問題に対応するためにも、今後、インターネットなどを活用した情報の発信を行い、市民のご意見を頂戴しながら、広い見地から検討を進めるとともに、国や道からも情報提供をいただきながら、有効活用の実現に向け努める。

### 編集後記

12月議会の議決事項、一般質問を掲載していますので、その後二次集計を精査し、新たな計画素案になっていきますが12月定例会時点での議論となっていますのでご理解ください。

12月議会での一般質問の論議を受け、議会としても「少子高齢化にある夕張市の住環境とまちづくり」

「公有財産の有効活用」の二点について、新たに議員研究会の課題として研究、協議していくことになりました。

### 編集委員

- 委員長 正木邦明
- 副委員長 伝里雅之
- 委員 角田浩晃
- 委員 高間澄子
- 委員 島田達彦